

アルツハイマー病 関連遺伝子を特定

新潟大など共同研究

アルツハイマー病の
かりやすさに関係ある遺
伝子が、新潟大など国内

45施設の研究でわか
った。患者1526人と
そうでない人1666人
のDNA配列を比べた調
査で、病気の解明や治療
法の開発に結びつくこと
が期待される。
DNAの配列にはわず
かな個人差(SNP)が
あり、これが病気のなり
やすさにつながっている
可能性がある。研究で
は、人間の10番染色体で
個人差が見つかっていた
約1200カ所を調べ、
6カ所の個人差がアルツ

ハイマー病と関連がある
ことが示された。昨年、
英国の専門誌ヒューマン
・モレキュラー・ジエネ
ティクスに発表され、さ
らに研究が続いている。
6カ所のうち5カ所は
「ダイナミン結合たんぱ
く」の遺伝子の周辺にあ
った。このたんぱく質は
神経伝達物質の輸送など
にかかわると推定され
る。新潟大脳研究所の桑
野良三・助教授は「アル
ツハイマー病患者の脳で
は、このたんぱく質の量
が少ないこともわかっ
た」と説明する。
アルツハイマー病のか
かりやすさと関係する遺
伝子としては、ほかにA
POE4遺伝子などが知
られている。